



世田谷区立砧中学校 校長室だより
令和5年 2月13日
第 55 号
校長 大坂 崇

| | | |
|-------------------------|-----------------|--------|
| 教育目標 「豊かな人間性の育成」 | | |
| ① 集団生活における責任感と自主性を養う | | |
| ② 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う | | |
| ③ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる | | |
| 社会性の学び | 知的的な学び | 心と体の学び |
| 自他の尊重 地域貢献 | 主体的な学び 学習の定着 | 心身の健康 |

「問い合わせ」の力（2）

「良問」（良い問い合わせ）

1 問い方の4原則

① シンプル

一番大切なことが明確なら、問い合わせは短くなり、内容も焦点化される。

『核心に迫る端的な問い合わせ』

例×「授業のプリントがわかりにくいから、もっと整理した方がいいのでは?、でも○○の部分は大事だからどう整理する?」

◎「そもそも一番大事なことは何か?」

② ノーボッジ

判断のある問い合わせは客観性を失う。思い込みや誘導・非難につながり、核心を見失う。

『客観的に核心を突く問い合わせ』

例×「いつも時間がかかるのは、時間の管理ができるないからじゃない?、だからうまくいかないんじゃない」

◎「一番気になっているのは?」「本当はどうしたい?」

③ ポジティブ

ネガティブな問い合わせは次の行動や思考を制限・停止させる。

『行動や思考の変容に迫る問い合わせ』

例×「どうしてこの実験はうまくいかないのだろう?」「成績が悪かった、どこがいけなかつたのだろう?」

◎「どうすればこの実験はうまくいくだろう?」「成績を上げるには何をすればいいだろう?」

④ ハイビジョン

今の立場でなく、より高い立場で考える事で、判断の幅が広がる。

『広い視野で正しい判断を導く問い合わせ』

例×「そのことで生徒が混乱するのは嫌だよな?」

◎「どうして生徒が混乱すると言うのだろう?」

◎「一時的混乱より生徒の成長が大切と感じていないのではないか?」

2 問いの方向性の4原則

① 核心を突く ⇒ 根本は何か?

Where :「どこに問題があるのか?」

Why :「なぜそうなっているのか?」

How :「どうするのがいいか?」

の順序で問う（最初にHowを問わない）

② 未来志向 ⇒ どんな状態が理想か?

「なりたい状態になるために、今どうするのがいいか?」

（なりたい状況になる力がある、というポジティブな考え方方が前提にある）

③ 枠を広げる ⇒ どうすればできるか?

「本当にそうなのか?」

「これもありなのでは?」

（ニュートラルな視点から、前提を疑い、問う）

④ 触発する ⇒ 何が一番大事か?

「そもそも自分(あなた)にとって…?」

（思い込み・信念を覆す=インスピア）

*状況に応じて「表出している言動」「信念体系」「感情の出来事」のいずれかを問う

3 偽物の問い合わせ・「問い合わせ」に見えて「問い合わせ」でないもの

例: 「AとB、どちらの英会話教室に通ったらしい?」⇒これだけでは答の出しようがない
この偽物の問い合わせは、次のような根本的な問い合わせが必要
「なぜ英語を話したいのか」「今のレベルはどの位か」「本当に英会話が必要か」